

# JID NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

## 臨時号

創立30周年記念事業の動き — 1

### 「創立30周年記念事業の動き」の発行

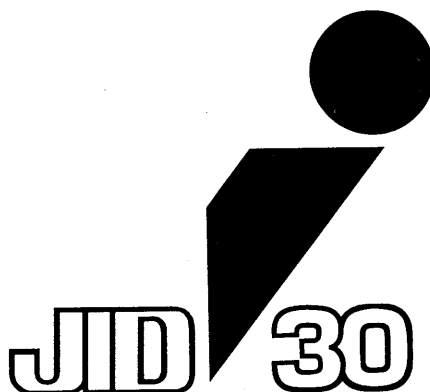
記念事業委員会常任委員 森 谷 延 周

去る10月28日の第1回プレス発表、賛助会員準備担当者会議の開催、機関誌インテリアデザイン107号の発行などを契機に、創立30周年記念事業が内外に向けて事実上スタートしました。

これからは各事業が段階を追って具体的なものになっていくわけですが、それにはJID全会員の支持が不可欠です。その支持を得るための一つとして、各委員会や各支部の動向をできるだけ早くお知らせすることが大切です。そこで、広報委員会と常任委員会とが協力し合って、JIDニュース臨時号を中心に「創立30周年記念事業の動き」を発行することになりました。

今号では、すでにお送りしました創立30周年記念事業の「企画書」以後の進行状況と各委員会や各支部で、今後どう進めていこうとしているかをお伝えします。

ニュースの内容をベースに、忌憚のないご意見をどしどしお寄せいただき、会員と委員会とのかけ橋にしたいと考えます。そして、30周年の節目を実りのあるものにしていきたいと願っています。



## 記念事のポイントは

1. 事業活動の経常化へ
2. 全会員が参加
3. デザイナー団体らしく

理事長 渡 辺 優

いよいよ記念事業の実施期間に入り、記念事業関係の委員会活動は一層活発化してきました。

理事長という立場から、私が再三強調しているのは主に次の三点です。

第1は、この記念事業を、この期間だけのお祭り行事に終らせたくないということです。これを契機に、それぞれの委員会活動をより活性化するため、この機会に得られる事業展開のノウハウを今後の経常的な事業に生かすことが大切ではないかと思います。

第2は、協会の事業活動を少数の理事や委員が進めるのではなく、できるだけ多くの会員の参加が得られるようにしたいということです。今回の記念事業の中には、その性質上少数の人たちで運営の方が効率がよいというものもありますが、展覧会や研究会など主体となる事業は全会員の参加が前提ですので、是非積極的なご協力をお願いする次第です。

第3は、デザイナー団体としてふさわしい成果を上げたいということです。これからの時代のデザイナーが果たす役割は何かを考えるよい機会でもあります。また予算の運用など実際の面でも、デザイナーらしい計画性を発揮したいものだと思っています。

30周年記念事業の成果に対する評価は、事業期間が終った時点ではなく、何年か後になってできるものだと思いますが、是非よい結果を生みたいものです。

見せよう！ 考えよう！ 語り合おう！  
広めよう！ 知らせよう！

—— J I D 30 記念事業のスタート ——

記念事業委員会委員長 川 上 信 二

21世紀に向けて、インテリアデザインの潮流を正しくとらえ、J I D の取組む姿を内外に示めす絶好の機会にしたい。

これが創立30周年をむかえた私達のだれでもが抱いて

いる願いではないでしょうか。 記念事業のテーマは、

21世紀に向けて

な が れ

生活環境創造への潮流

これについては、「箱根フォーラム」はじめ皆様のご意見を結集した上で記念事業委員会で決めさせていただきました。

伝統と革新の意味をこめ、時代の移り変わりと未来に向けての展望を“ながれ”の切り口で示そうということです。

10月28日の第1回プレス発表ではすでにお届けした「企画書」をもとに事業の概要について説明しました。この中では、5つの事業を柱に、30周年記念事業としての取組みを契機に、J I D の新たなスタートにもなることを強調しました。それぞれの事業は展覧会を除いては従来の各委員会活動の延長線上にあるものばかりです。これは日頃、私達会員の組織化の中でのメリットである“理解し合い”“研鑽し合い”“職能を確立して行く”をこの機会に更に強くしていこうという現れでもあります。そして、箱根フォーラムでも一番大きな話題となったのが「社会とのつながり」「社会への働きかけ」、これらに対する不足です。J I D の社会とのつながりは展覧会により見てもらうことが最上の方策ではないか、これが支部事業としては活発でも、本部事業として不充分であったことは会員メリットの不足にもなり、是非この記念事業を契機にJ I D 全会員の総力を結集して行うべきであり、これからの経常事業にもするべきだとの結論になりました。その意味で、展覧会委員会は発足が遅れましたが、いま急ピッチで開催準備のため取組んでいます。5つの事業は、企画書では生真面目な、「展示、研究、交流、出版、広報」というタイトルですが、私達会員同志の合言葉としては、「見せよう！考えよう！語り合おう！広めよう！知らせよう！」これで行きたいものだと思います。

’88年11月、これから’89年12月までを記念事業の実施期間として随時、企画の詳細が決まり、実施に移していきます。私達全会員が参加出来る行事の進め方と、それによって生みだす相互のメリットによって30周年記念事業を有意義に進めていくよう努力していきますが、皆様のご協力を切にお願いいたします。

## 展覧会を最大のイベントに

展覧会委員会委員長 中 川 齊 ニ

8月中旬、箱根湯本にてJ I D会員による「箱根フォーラム」が開催され、33名の参加のもと活発な熱のこもった会議が行われ、J I D 30周年記念事業の一環として、展覧会委員会がその時発足致しました。

9月、舞台を東京に移し、四支部をつなぐ「巡回展」の基本的あり方を中心に、委員の人選、会場設定、テーマやコンセプト作り等、企画案作成で9月もアツという間に過ぎました。一方、東京展は10月27日、会場候補の担当部長に企画の概要を説明、又11月17日には宣伝担当の次長・課長へのPRと、企画内容について説明しました。そして現在、さらに詳しく説明すべく準備中です。

展覧会のサブテーマは仮称「アメニティを超えたインテリアを設定、内容的にはテーマに基づいて、グループ出品での提案、又個人参加ではジャンルを超えたデザインで、日頃余り扱っていない素材やアイテムに挑戦するチャレンジコーナー等を考えています。近々に四支部間の調整を予定していますので、よろしくご協力をお願いします。なお、「展覧会企画ミーティングへのお誘い」を開催致します。多数の参加者を望んでいます。

日時 1988年12月17日(土) PM 1:00~3:30

場所 東京トミタショールーム 4F TEL 03-273-7551

## 世界デザイン博、デザインギャラリーの三団体共同出展決まる！

——テーマは「新作法の創造」——

世界デザイン博覧会等委員会委員長

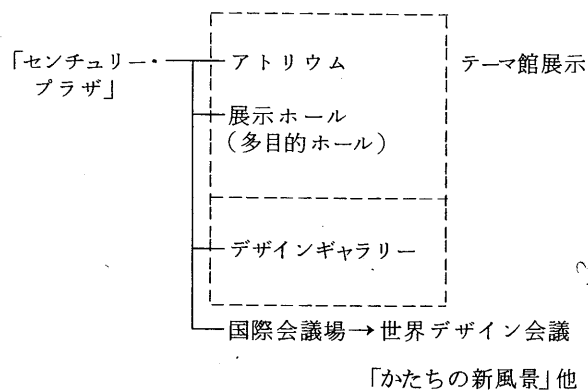
宇 賀 敏 夫

既に御存知の事と存じますが、来年1989年7月15日より11月26日まで135日間名古屋にて世界デザイン博覧会が開催されますが、そのメイン会場である白鳥会場のセンチュリー・プラザの1階にテーマ館の併設展示空間として面積700㎡の常設展示場が(図参照)設けられ、この全会期中に全国規模のデザイン団体及び地元のデザイン団体合計13団体が各々2週間ずつデザイン展示会を開催することになりました。J I Dも参加することになり通産省の認可6団体の内で、日本クラフトデザイン協

会(J C D A)と日本ジュエリーデザイナー協会(J J D A)の2団体と共同で来年8月26日(土)から10月5日(木)まで約6週間の展示を行います。3団体共通のテーマは「新作法の創造」サブテーマとして「新しいコミュニケーションのために」という事で過去、現在、未来の歴史の流れを人と空間のかかわり方を物を通じて表現する展示会になろうかと考えています。これはJ C D A、J J D Aとも共通のテーマで内容も伝統と未来の考察の中で物が出展されると思います。J I Dの世界デザイン博覧会委員等会の構成メンバーにて(J I D創立30周年記念事業の企画書参照の事)展示計画を煮つめて居ります。追ってこの博覧会ギャラリー展示に関しての内容企画書も作成し、会員各位に展示計画に関する内容報告と、展示会参加の呼びかけを行います。しかし実際の展示の有効面積は500㎡と狭く、加えて3団体共同出展ですので、展示物もかなり限定されます。博覧会協会事務局(名古屋商工会議所10階)からは会場の無償提供と1デザイン団体¥500万円の補助金が提供されますので、その範囲内で出展計画を立案致します。細い出展条項も規約として定めてありますので、追々内容について報告を行って参りますが、大体以上のような内容ですので出展範囲もかなり限定されます。担当委員会で審議された出展計画骨子を定めて、皆様方の参加を募るつもりです。いずれにせよJ I D 30周年記念事業展示にふさわしい内容のあるものにしたいと担当委員一同衆知を集めて計画を立案しますので、よろしくご配慮下さい。現在名古屋在住のデザイナー諸氏あるいは関連企業は世界デザイン博覧会のそれと10月18日から10月23日まで行われる世界デザイン会議の一大イベントには担当実行委員としてまたパビリオン内の展示など何らかのかたちで参加しています。会員諸氏には、この時期に奮って名古屋へ来て、交流を深めて頂きたいと存じます。世界デザイン博覧会、デザインギャラリー展示を成功させたいと考えます。

※テーマ館平面図は14ページをご覧ください。

- ・白鳥会場の中に恒久施設として建設される「センチュリー・プラザ」の1階部分（中央のアトリウム、及び西側の展示ホール〈多目的ホール〉等）を使用する。



#### ※アトリウム

テーマ館の導入・導出空間として、空間特性を生かしたテーマイメージを展開する。

#### ※多目的ホール

テーマ館の主展示空間として、テーマ理解への先導的役割を担う展示を展開する。

#### ※デザインギャラリー

テーマ館の併設展示空間として、テーマ理解を補強するデザイン関係展示会を開催する。

#### ※国際会議場

世界デザイン会議（テーマ「かたちの新風景」）及び博覧会関係イベント、テーマ理解を促す各種催事を展開する。

## 「IFFT'89」と「JAPAN TEX'89」について

共同事業委員会委員長 三輪正弘

当委員会では①IFFT'89（1989東京国際家具見本市）で併催予定のイベント企画（案）と、②JAPAN TEX'89について企画立案の協力を行いました。内容は以下の通りです。ご報告いたします。

①IFFT'89（1989東京国際家具見本市、会期1989年11月22日～26日、東京・晴海、東京国際見本市会場）

主催者の（社）国際家具産業振興会よりの打診を受けて、下記 [A] のような企画（案）を作成し、63年10月7日に提示しました。その後、先方の希望を勘案して、再度 [B] のように企画（案）を作り63年11月1日に再び提示いたしました。

また、②JAPAN TEX'89（第8回インテリアファ

ブリックスショー、会期1989年1月26日～29日、東京・晴海東京国際見本市会場）は、主催者の実行委員会が去る10月18日開催され、昨年に引き続き「第2回日本インテリアテキスタイル作家展」が下記 [C] のように開催されることになりました。同様ご報告いたします。

[A]

### IFFT'89 イベント企画（案）

63.10.7

IFFT'89 イベント企画案の基本方針を受けて、企画内容、テーマを検討する。

#### ① 企画のアイデアラッシュ

##### A. 世界デザインコンペティション

- ・IFFTのイベントであることから、デザインは家具・道具に限定する。
- ・日本の家具業界の興味を引き出すものとしたい。
- ・優秀作品は日本の家具メーカーが実物をつくる。
- ・審査員には、外国人に参加していただく。
- ・年齢をくくる。

学生を含めた若い世代のデザイナーの発掘を目指す。

年齢制限、1955年以降に生まれた人を対象とする。

##### ・発表展示会の中で

表彰式を行うことと同時に、IFFT出品者によるスカウトドラフトパーティを開く。あるいは入札コンペでは……。

##### B. 世界21カ国有名デザイナーによるインスタレーション

21世紀へ向けて、世界21カ国の有名デザイナーによるインスタレーション展示を行う。

ノミネートはIFIを中心として提案していただく。

又、自選も検討する。又、各国大使館に働きかけ、立候補を呼びかける。

21世紀のための

21カ国による

21人によるインスタレーション

##### C. 日本の家具界イクスピアリアンス

- ・日本の家具メーカー

- ・日本の家具流通界
- ・日本の家具ジャーナル
- ・日本の家具関連団体
- ・日本の家具行政

を一堂に情報集約して、ここで日本の家具界の全体験をしていただく。

#### D. 世界のライフスタイルと家具

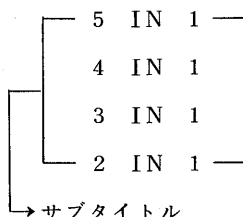
B案と類似するが、こちらはデザイナーのパーソナル性を重視する。

#### ② A, B, D についてのテーマ・エスキース

リラクゼーション // ゆとり

新しい豊かさ //

ライフ・クオリティ // 生活の質



コミュニティが生まれる時

example

3人が出会う食卓

何のために並ぶのか

2人で使う1つの道具

etc.

明日の生活のための家具 //

“The furniture” for tomorrow Life

次代の家具 //

“The furniture” for next age

21世紀のための家具 //

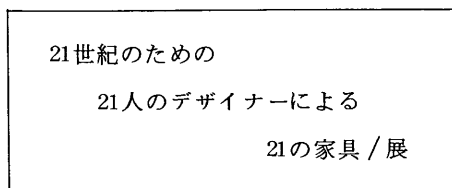
“The furniture” for 21 st. Century

(以上)

#### B

#### IFFT '89 イベント企画(案)

63. 11. 1



#### □ 内容について

- ・巾広く国際的に活動しているデザイナー21人をノミ

ネートし家具を中心にした空間の提案展示

EX. 海外 国内

3 : 1

15~6人 4~5人

- ・家具及びディスプレイの製作は国内の協賛メーカーが当たり、デザイナーとの新しい出会いの機会とする。

- ・展示スペースについては、休息スペースと一体となる会場構成とし、展示内容と関連した映像等も常時流し、IFFT '89全体の中心的スペースとして効果させたい。

- ・マスコミに対しては十分計画的にPRを行い作品の発表に関しては国際的に評価されているデザイン関連雑誌への連載を依頼する。

EX. 海外

DOMUS (イタリア)

md (西独)

ABITARE (イタリア)

FORM (スウェーデン)

INDUSTRIAL DESIGN (米国)

国内

AXIS

ICON

にっけいでざいん

F P

室内

新建築

S D

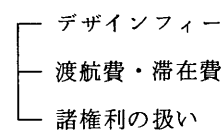
ブルータス

#### □ コミッティー設立について

- ・IFFT, JID 協議の上全体のプロデュースするグループ(外国人, デザイナー以外の人達を含め)を選出

<コミッティーのワーク>

- ・ノミネートに際してのテーマ・規定作成



- ・ノミネートデザイナーの選定

- ・協賛メーカー・企業の選定

(以上)

## C

### 第2回日本インテリアテキスタイル作家展の概要

目的 我が国インテリアテキスタイル業界の第一線で活躍されているインテリアテキスタイル推薦作家による作家展を通じ、インテリア業界および関連業界に、その優れた作品に接する機会を提供し、併せて高度なインテリアファッション創造への切り口を示唆する。

名称 「第2回日本インテリアテキスタイル作家展」  
主催 日本インテリアファブリックス協会  
「第2回日本インテリアテキスタイル作家展」実行委員会  
後援 通商産業省  
協賛 社団法人 日本インテリアデザイナー協会  
会期 1989年1月26日(木)～1月29日(日) 4日間  
会場 東京国際貿易センター(JAPAN TEX'89・西館 Front Gallery)  
出展作家 (社)日本インテリアデザイナー協会、インターナショナルデザイナーズアソシエーション  
他の推薦作家  
規模 約150 m<sup>2</sup>

## 研究活動のスタートに向けて

研究委員会委員長 山田 伊三郎

10月27日に実施致しました研究テーマアンケートに(返信総数約160通でした。現在細目集計中です。)返信、アドバイスをいただき紙上を借りまして厚くお礼を申し上げます。現在アンケートの集計を行っており、近々中に会員の皆様にその集計結果とテーマの選択をしてお知らせする事が、できると思います。その節は会員の皆様の多数のご参加とお力添えをよろしくお願い致します。当初の日程より多少遅れる事を懸念していますが、会員の皆様の参画による研究活動の一步をふみだす事が出来ればと、各委員も着実に作業を進めております。今後の日程としては、年内にこのアンケート集計結果と、研究テーマの選択を皆様にお知らせし、参加の確認作業を行い、新年1月中旬にチーム作りを行って研究活動をスタートする予定をしております。初めて企画し実施をめざしますこの研究活動を成功させるのも会員の皆様の参加によってであり、是非ご参加を

お願い致したいと思っています。

## 「特別セミナー」を構想中

教育委員会委員長 田辺 麗子

JICA研修員6名のために、6月以降入選やカリキュラムの編成など多忙を極め、30周年については出足が遅れました。

先週末、JICA研修の慰労会を兼ね、しばらくぶりに30周年を議題とした委員会を伊豆高原の草崎クラブで持ちました。

教育委員会は、全くアイディアがなかったというわけではなく、ここ数年来、インテリアデザインの本質にせまるテーマを出版物にしようか、セミナーがよいか具体的な方法が決まらないまま温めてきました。

インテリアデザインという職能を世間に正しく理解してもらうことは、コーディネーターやプランナーの資格制度が生れてきたいま、非常に急がれることであるという認識をもっています。

私ども、教育委員会は、インテリアデザインを正しく世に伝えるために、このような制度を超え、「インテリアデザイン」を住文化の中心に据えた考え方でその方法を探っています。

30周年には、JIDのエキシビジョン期間に特別セミナーを数回のシリーズを行えば、と考えています。具体的な内容、場所等は未定ですが魅力あるセミナーにしたいと、構想を練っています。

## 「国際イベント'89」企画の狙は

国際委員長 後藤 宣夫

企画の目的

内需拡大が叫ばれると同時に生活を真に豊かにするための方策が、求められる中で、インテリアデザインは、ますます重要な分野になってきました。

又、一方では我が国が国際社会で果たすべき役割についてもいろいろ議論されています。その様な中で、JIDはIFIを通じて、西洋諸国のインテリアデザイナー団体と、活動を共にしています。しかし、近隣諸国に関しては、東南アジアの国々との協力の下で活躍中の協会

員を、数多く擁している割には、協会としての働きかけは、ほとんど行なわれていません。近隣諸国の関係者団体との交流を深めること、つまり「アジア地域のインテリアデザイナーとの交流」が、本企画の第一の目的です。このような企画は、大勢の協会員の連係プレー無しには不可能です。

- 各事業支部ごとの主体的事業推進及び親睦会の開催
- 各委員会活動の横の連絡
- 賛助会員に協力していただくと同時に利用してもらうこと

と同時に、このようにして、協会員相互の親睦の機会をつくるのが第二番目の目的です。そして、この機会を通して「J I D」の存在をアピールすることが、第三番目の目的です。

わかり易いいうと、来年度、各地で予定されている数々のイベントを横断体験し、ホームステイや地場産業とのコンタクトを通して日本の日常生活やデザイン活動が指向するものを、近隣諸国の関係者に理解してもらい、それをアジア諸国の現実の中に位置づける試みと、考えています。

#### 企画概要

1) 東南アジア諸国のインテリアデザイナー協会（インドネシア、フィリピン、シンガポール、韓国で既に結成されている）の代表者や、それに近い立場にある人を参加者とする。一応、インドネシア、シンガポール、マレーシア、タイ、フィリピン、香港、韓国、中国を対象国とし、10～15名の参加を考える。

2) 来年度はデザインイヤー参加事業と、市制百周年記念事業が重なり、全国で数多くのイベントが準備されている。例えば

- 盛岡：クラフトフェスティバル
- 秋田：日本海文化シンポジウム
- 新潟：食と緑の博覧会
- 富山：東アジア文明の源流展
- 名古屋：世界デザイン博、国際デザイン会議
- 広島：海と島の博覧会
- 福岡：アジア太平洋博
- 鹿児島：市民生活100年展
- 他

参加者グループは、J I D が組織する国内ツアーを行な

い、各地で上記イベントに参加し、同時にインテリア関連企業とのミーティングや、工場見学、協会員とのミーティングを行なう。

- 3) 各地での、参加者による自国のインテリアデザイン事情の説明会や、国別の展示会等、参加者の側からの発表の機会を設けたい。
  - 4) ツアー終了後に、セミナーを開催する。テーマは例えば
    - 日本の指向するものとアジアの指向するもの
    - アジアのインテリアデザイン
    - 国際的インテリア関連ビジネスのあり方等
  - 5) 国内イベントの日程に重なる時期に行ない、期間は2週間程度とする。
  - 6) 日本迄の旅費は先方持ち、国内旅費、イベント参加費は、主催者負担とする。宿泊はホームステイを原則とする。実費予算は、参加者一人当たり30万円程度か。
  - 7) 協会内に超委員会的な、アジアイベントグループを組織し、企画運営にあたる。
- 例えば以下のような共同作業を提案したい。

- 各地での宿泊スケジュール（ホームステイ、研修所の利用など）

#### イベントへの参加方法

##### 親睦会の開催

担当：各事業支部

- 行政機関との協力
- メディアへのアピール
- セミナーのプログラミング
- 賛助会員との相互受益的協力態勢の模索

財務委員会

- 参加者募集とオーガナイズ

国際委員会

以上の骨子をベースにして、どのように肉付けしてゆくかが今後の課題です。

## 来秋「大親睦パーティ」を名古屋で

交流委員会委員長 山本 棟子

交流委員会では、昭和61年度より国内の渉外を業務とし、正会員や、賛助会員そして関係省庁、デザイン関係諸団体との交流を、交流パーティの開催を中心に活動してきました。

交流パーティも会を重ねるごとに盛り上がりが見られ、

委員全員の励みとなっています。

J I D 30に当たり、いままでの交流パーティの輪を広げ、世界デザイン博等とタイミングを合せ、開催地名古屋での「大親睦パーティ」を予定しています。

全国の会員の方々、そして協会活動をご支援下さる方々とともに楽しく会し親交を深め、よりよき協会の発展へのベースを一層強力なものとするワークラップとなればと考えています。

現在、会員へのアンケート調査、及び前記のパーティに関して、中部事業支部の協力を得て検討を進めています。

私たち交流委員会では、来秋皆様と名古屋での「大親睦パーティ」でお会いできることを楽しみにしています。

|        |      |       |
|--------|------|-------|
| 交流委員会  | 担当理事 | 白石勝彦  |
|        | 委員長  | 山本棟子  |
|        | 副委員長 | 長谷川隆之 |
|        | 委員   | 浅野盛治  |
|        | "    | 宇佐見伶子 |
|        | "    | 金子浩子  |
|        | "    | 見城美子  |
|        | "    | 古藤司郎  |
|        | "    | 杉本真二郎 |
| 中部事業支部 | 栃谷賢一 |       |
| 関西     | "    | 上野忠之  |
| 九州     | "    | 溝口 新  |

## 記念式典は来年 5 月 26 日 東京・日本青年館に決まる。

総務委員会委員長 秋 山 修 治

総務委員会は「J I D 30」の5つの事業のうち交流事業（語り合おう）の中の、「30周年記念式典」を核に担当します。

開催日は、昭和64年5月26日（金）を決定。場所は当協会事務局にも近い（財）日本青年館のホール（神宮球場の隣り）です。尚当日は「第21回通常総会」もあわせて実施を予定しています。現在細部等については検討中ですが、30周年記念の式典にふさわしい内容にしたいと思います。30周年記念を一人でも多くの人達と過ごせるよう意義あるものを計画中です。

内容は「30周年式典」を始め、21世紀へむけての提案のある「記念公演」や夕刻には「30周年記念パーティ」

で楽しく和やかに語り合い数多くの人達と交流を深められるものと考えています。その他、当協会がこれまで順調に発展して来た裏には数多くの人々の労苦と後援がありました。このような方に30周年を機会に「功労者表彰」等を予定しています。功労者の選定規準等については総務委員会で原案を作成し、選考委員会で決定する方向で考えています。

式典、パーティ等については以上のような概要で計画していますが、すべては会員各位の積極的参加によってしか成功しません。内容に対するご意見等を含め会員の皆さんの参加を希望しています。

## J I D 30周年記念特集号来秋に発行

出版委員会委員長 吉良 ヒロノブ

機関誌「インテリア・デザイン」108号、デザインビジネスをテーマに編集集中、来年1月25日に発行予定。

今後のインフォメーションのページは、30周年記念事業の記事を中心にまとめていく予定。また、来年9月25日の110号「J I D 30周年記念特集号」については、J I D 30年史に関する協力依頼書を該当する会員に発送して、できるだけ早く資料を収集したい。（3月を一応のメド）また、来々年1月発行の111号は展覧会を中心とした編集を考えている。

一方、研究シリーズ(1)のレポート出版については研究委員会からの要請後に活動を予定している。

### 1 月 25 日 発行 予定

「インテリア・デザイン」108号

特集 — デザイン・ビジネス

インフォメーション 3P（30周年事業報告ページとする。）

### 5 月 25 日 発行 予定

「インテリア・デザイン」109号

特集 — 会員 or 外 デザイン・ビジネス・テクニック

インフォメーション 3P 30周年事業報告ページ

### 9 月 25 日 発行 予定

「インテリア・デザイン」110号

特集 — J I D 30 特別号

全ページ 30周年史 特別増ページ予定

P数については未定



30周年史については、今年中、又は1月中までに依頼書を出す。

1月25日発行予定

「インテリア・デザイン」111号

特集 — J I D 30 展覧会等、特別号

全ページ

研究シリーズレポートについては、現在、30周年史の計画をしつつ研究委員会からの案を又は、セミナーを待ち、動き出す。現時点の計画は以上です。

## 「新・インテリアマップ」は 国内外主要都市版で来秋発行

インテリアマップ委員会

委員長 福田 友 美

インテリアマップ委員会では、先の総会で承認を受け、すでに実施することになっている「新・インテリアマップ・国内外主要都市事業所収録版」の企画・監修を主体とした事業計画の具体化に向けて、種々検討してきましたが、このたび、実施に向けて企画案の作成を終え、現在、ようやく各事業支部との調整と、出版社へのアプローチの段階に入ろうとしています。

想えば、J I D の最初のインテリアマップ「インテリアマップ500 TOKYO」は、10年前、J I D が20周年を迎える記念事業の一環として、この種のものとして初めて世に出したものです。当時、長岡委員長を中心にインテリアマップ委員会の手で全面的に編集作業を行い、(株)インテリア出版の販売協力を得て出版したものでした。

以来、インテリアマップは、第2集の(株)CBSソニー出版、第3集の(社)インテリア産業協会、さらには、前回のトソー出版(株)による第4集に至るまで改訂を重ね、今日に至っています。第2集以後J I D はご承知の通り、企画・監修という立場で担当、編集主体は各社で行われるようになりました。

最初の出版から10年、今回はJ I D の30周年にあたり、全国4事業支部の協力のもとに「全国主要都市版」を計画、再びJ I D の記念事業の一翼を担うことになりました。

この10年の間に、社会の状況も大きく変わってきてい

ます。インテリアマップも、時代を反映させた、フレッシュで“より楽しいもの”“より美しいもの”“より便利なもの”“より充実したもの”をめざして、カラフルにグラフィカルに全面改訂し、今回は、二世世代目の出版として企画しています。

その具体的概要は次の通りです。

### 名称

インテリアマップ・全国主要都市版(仮称)

附録：世界の主要都市インテリアガイド

### 体裁

判型 B 5 判(週刊誌サイズ)

印刷 オールカラー

頁数 200 頁以上

### 収録地域

- 国内
  - 関東……(東京、横浜など)
  - 関西……(大阪、京都、神戸など)
  - 中部……(名古屋、静岡、高山など)
  - 九州……(福岡、大川、日田など)
  - 北海道、東北……(札幌、旭川など)
  - 中国、四国……(広島、倉敷、徳島など)
- 海外
  - ヨーロッパ……ロンドン、パリ、ミラノ、ハンブルグ、ブラッセル、バルセロナ他
  - 北ヨーロッパ……コペンハーゲン、ストックホルム、ヘルシンキ、オスロー
  - アメリカ……ニューヨーク、シカゴ、ロサンゼルス、サンフランシスコ他
  - ニース、アセアン地域

### 内容

- ショップ、ショールーム、事業所案内
- エリアマップ(ショップ、ショールーム散歩)
- インテリア得する情報(J I D メンバーのパーソナリティを活用して、得する情報をコラム風に)
  - ・デザイナーひとくちメモ……ショールーム(J I D メンバー100人による)
  - ・インテリア豆辞典……“職人ことば”など
  - ・世界の家具の価格比較(代表的名作を取り上げて)
  - ・海外インテリアツアーひとくちコメント(情報)他
- インテリア関連学校案内
- 美術館、博物館、資料館案内、他

'89年10月上旬

この企画は、全国の4事業支部に各事業支部単位で、担当各都市・地域の掲載予定事業所リストの作成と〈事業所案内〉の取りまとめをお願いすることになります。幸い、全国組織の当協会には、広範囲に会員が分布していますので、皆さんのご協力をいただければ、各地域のフレッシュな情報を掲載でき、インテリアの生きた全国情報誌にすることができると考えています。

また、〈海外情報〉につきましては、各都市ごと、インテリア情報に精通している会員の皆さんに、情報提供と協力を是非お願いします。情報をお持ちの方、または情報を持っている人をご存知の方、あわせて各委員まで情報をお寄せ下さい。

〈インテリア得する情報〉では、多くの会員の皆さんに参加していただき、ひとくちコメントとして情報やメモを、さらにはコラム風な頁に原稿を寄せていただきます。

このように、多くの会員の皆さんの協力がなくては、今回の「新・インテリアマップ」は刊行できないでしょう。

30周年の記念事業として、いろいろな企画が進行していますが、その中でインテリアマップは、全国各地の多くの会員の皆さんが一堂に参加できる企画の一つです。30周年を皆んなで盛り上げる為にも、多くの会員の皆さんのご協力をお願い致します。

尚、本企画概要案に関して、ご意見・ご提案などありましたら、インテリアマップの各委員まで是非お申し越し下さい。

## 「第1回プレス発表無事終える」!!

広報委員会委員長 笠 松 栄

J I D 創立 30 周年記念事業プレス発表の第 1 回目が、11月28日(金) 午前 11:00 から 1 時間、建築家会館の 1 階ホールで、プレス関係 15 社が出席する中で行なわれました。J I D からは理事長を始め、各理事、記念事業委員、広報委員が出席した。理事長挨拶の後、記念事業委員長から事業企画内容が説明された。プレス発表後、プレス関係者と J I D 会員の交流パーティーに入り、和や

かな歓談の一時をもって無事終えることが出来ました。記念シンボルマークも同時発表された。尚プレス発表の一部始終を、専門家によってビデオ撮影録画取りしましたので、今後会員の皆様にご活用していただきたいと思います。

## 30周年ポスター制作案が決まる!!

(一) 制作主旨——J I D の会員もすでに 700 名を越えています。会員意識の啓蒙と結束が今後共大切になると同時に、対外的に歴史、規模、テーマなど、アイデンティティーをアピールする良い機会を得ましたので、ポスターというメディアを通して 30 周年記念事業の一助といたします。

(二) ビジュアルコンセプト——会員全ての顔写真、30 周年記念マーク、30 周年記念テーマをレイアウトに入れたデザインとする。顔写真はモノトーン印刷。

(三) スケジュール——1989 年賀詞交歓会にて発表(校正刷りの実物)、その後速やかに印刷。

(四) 刷り部数および配布——3,000 枚印刷、会員一人当たり 3 枚を配布、自分のワークエリア(事務所等)のほか、対外的に掲示をお願いする。各委員会および事務局からも関連団体等へ配布をお願いする。

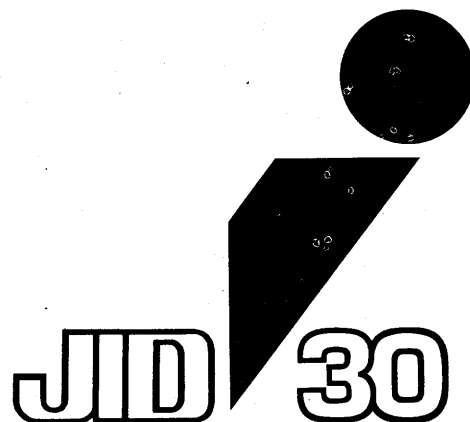
(五) 費用——(制作のみ) 1,500,000 円

デザイン、制作方法決定後見積り

(六) 備考——会員の写真については、事務局へ送付依頼を期限付きで行ない、到着しないものについては会員名簿のものを流用する。

## シンボルマークのデザイン意図

グラフィックデザイナー 鶴 田 雅 朗



このマークを考えると、そのシンボルとなるべき要素、視覚的ヒントが「インテリアの頭文字の(i)であろう」と言うことはデザイナーなら、ごく自然に思い当た

ることです。

(i)をデザインする一円一宇宙なるものと、内的な世界、この両面を表現できうる図形、一矩形一創造された空間・フォルムの代表である図形。矩形を梯形(trapezium)に、そして個々を切り離し、再び結び付けた時そのフォルムは限りなく人間に似たシンボル表現になりました。これはインテリア自身が、人間という要素を内在していたと考えるべきでしょう。この幸運に出会った時、そして、それを引き出した時、私のデザイン作業は完了しました。

S. 23・10 東京生れ

S. 47・3 武蔵野美術大学基礎デザイン学科卒

S. 48・11 (株)上條スタジオ入社、現在に至る

<JAGDA> 日本グラフィックデザイナー協会・会員

## 全会員参加の財務計画

財務委員会委員長 田 中 聡 行

本年6月より財務委員会がJ I D 30のために立ち上りました。当然財務計画の立遅れのそしりはまぬがれません。財務規模が不明確のままでの各委員会の企画ですので、若干具体性に欠けておりましたが、ここにきて各委員会とも急ピッチで案を練り上げております。

その間、記念事業委員会と財務委員会では、総予算6000万から3000万位まで何通りも立案致しました。

現在最も実現性のある予算案は、展覧会に1200万、研究セミナーに120万、国際イベントに400万、国内の交流に400万、記念式典及びパーティに300万、出版に300万、新マップに300万、広報に250万、その他を含み、約4000万位となります。

基本は無理をせず全会員諸氏のご納得のいく予算規模でまとめる努力を致しております。

しかし各委員会の内容を充実させるためには、どうしてもある程度の予算が必要となって参ります。

今回のJ I D 30では他力本願でなく、我々全会員が資金面でも、各イベントにもふるってご参加して戴き、盛り上げることが理想であると思います。

この記念事業を成功させるために現状を認識した上で、財務計画の達成にご協力をお願い致します。

ご意見がございましたらお寄せ下さい。

## 「会員拡大の推進」にご協力を

組織委員会委員長 小 坂 希八郎

30周年事業を盛りあげ、成功させるために、それを支えるには財政がしっかりとしたものでなければなりません。そのために当委員会では、この一年間、会員の皆様のご協力のもとに、会員拡大に努めてまいりました。その結果、現在約40人の新会員を獲得することができました。まだ入会の希望をいただきながら、手続きをして頂いていない人が約30人程あります。これらの人にも手続きを急いでいただくように働きかけていますが、ご推薦いただいている会員の皆様からも、声をかけていただきたく、ご協力をお願いします。

最近ますます、インテリアに世間の注目がそそがれ、関連のある業界も広がってきています。今後は正会員のみならず、参助会員も対象により一層の努力をしていく所存です。当面、協会の活性化のために会員拡大を最大の目標として活動をつづけますので、会員の皆様には、引続きご協力賜わりたく、よろしくお願い申し上げます。

## バランスの取れた事業に

関東事業支部支部長 竹 中 幸 雄

創立30周年記念事業に関連して関東事業支部としては、現在次の様な事業計画案を持っている。

1. クイーンエリザベスⅡ世号の見学(交流委員会と共催で4月8日(土)、5月6日(土)を予定している。)
2. 川越市街及び近郊の建物見学。
3. 横浜MM 21地区の新美術館、横浜銀行協会の建物と内部の家具の見学。
4. コンドル氏設計の三菱迎賓館の見学。
5. 横浜市開港記念会館、同開港資料館(旧イギリス領事館)、同ホテルニューグランドのインテリア、神奈川県立博物館(旧横浜正金銀行本店)の見学。

そしてさらに、今後の委員会において30周年にふさわしい事業を検討することになっている。

## 模索から有効な事業へ

中部事業支部支部長 林 寅 正

中部事業支部の地域では昭和64年に世界デザイン博・世界デザイン会議が行われることは衆知の事です。たまたまこの年にJ I Dの30周年記念事業が各種行われ、又国レベルの《デザインイヤー》も決定しています。デザイン関連のイベントが相乗効果を発揮するまたとないチャンスではないかと思ひます。

今私達中部事業支部のメンバーはこの機会をどう生かすか模索中です。世界デザイン博の会場は3会場にわかれますが、その中の白鳥会場には白鳥センチュリープラザが建設され、その中のデザインギャラリーに当協会、日本クラフトデザイン協会、日本ジュエリーデザイナー協会の3団体が約600㎡の面積を使用して協同展示を8月26日から10月5日まで参加展示をするべく3団体の基本合意は得られたとの事です。

第2にはJ I D 30周年記念の会員による全国巡回展の開催があります。さる11月4日、川上委員長、長岡副委員長にわざわざ名古屋まで御足労をいただき説明を聞いたので、できればこの巡回展はデザインイヤー参加展として、名古屋の交通便利な場所をさがして多くの方々に見ていただけるようにしたいが、まだ支部としてどの場所であつ、どんな形で開催できるか、これから検討をしなければならぬ事で、来たる12月初めには委員会開催の予定です。

第3にはJ I D 30周年を記念して中部事業支部としての独自の展覧会？ セミナー？ 講演会？ ……何かを64年の世界デザイン博、デザインイヤーに関連して行いたいと話していますが、まだ具体化されてはいません。

以上2つの展覧会と1つの中部独自の事業を支部会員の皆様に問にかけている状態です。

皆様の御支援を心からお願いいたします。

## 「展覧会」の充実を願う

関西事業支部支部長 栢 原 秀 栄

生活者に対するインテリアデザイン啓蒙は、個人デザ

イナーの日常業務の範囲内での活動だけでは難しい要素を多く抱えていると思われる。日本を代表するインテリアデザイナーの協会が、特に30周年という大きな節目の中で開催しようとする展覧会は、単なる個人個人の作品展的内容にとどめることなく、協会でしかなし得ない内容の伴ったものとしたいと願うものである。

企画原案にのっとり展示構成されるものであろうが、各支部の特徴を活かした生活空間創造の考え方を、より具体化した展示ブースとしてはいかがであらうか。

日本の国土は狭いといわれながらも、各地方によって生活環境や生活習慣も大きく変わるし、日常の私生活空間に対する考え方もそれぞれ異なるものである。その意味からも各支部における巡回展でその差異を知らしめ理解することも一つの方法として良いのではなからうか。

又、展覧会開催が一過性のものとして写真記録のみにとどめることなく、ビデオ収録を行い、インテリアデザインの教育の場への情報提供計画をたててみても良い時期にきている様である。

## 「アジア太平洋博」イベントホールに全員参加か

九州事業支部支部長 坂 下 昌

九州事業支部では4月の支部総会で全員参加のネットワークづくりを目指すことを確認、毎月例会を開いて会員各位の自由な意見発表をやることにより支部活動の指針を見出すべく回を重ねて来ました。近年フリーのデザイナーの新会員が増えたことと、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター等資格試験にからんでデザイナーの職能が議題となり、地域社会でのJ I Dのレベルアップをはかり、知名度を上げること、デザイナー集団として作品展を中核事業として外部にアピールすることで全員一致。

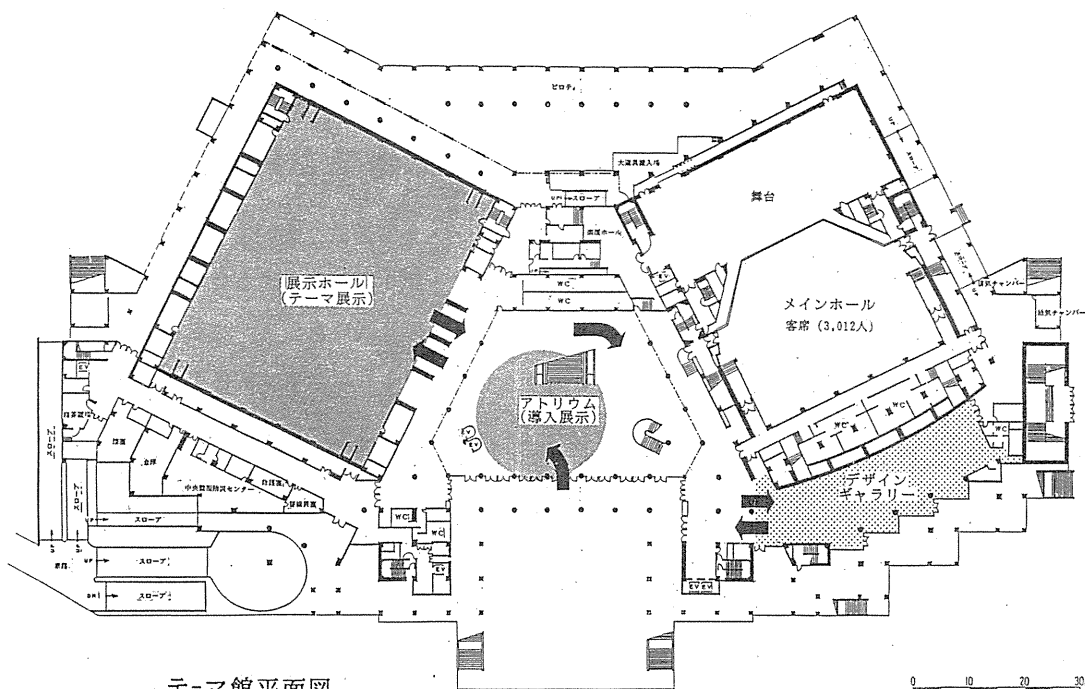
例会の卓話は会員の中からその都度出してもらい既に6回を重ねて来ました。第1回は九州支部会員のかかわった62年度地場産業デザイン高度化特定事業＜日田家具デザイン開発＞の成果（中川理事）。第2回は、大川総合インテリア産業振興センターと懇談報告、（坂下支部長）インテリア産業協会九州支部総会報告、（森総務委員長）。第3回は本部より山品事務局長をお迎えして、支部事業費配分、J I D 30周年記念事業、名古屋世界デザイン博のデザインギャラリー参加等の説明の他、本部

のエピソードを交えた情報を聞きながら交流を深めることが出来ました。第4回は中村忠司会員による〔インテリアデザイナー再考〕。中川理事による〔J I D 30周年記念事業について〕。森総務委員長による〔九州事業支部作品展実施場所確保〕、フリートーキングで作品展実施の方向で進めることを確認。第5, 6回とでJ I D 30周年記念九州事業支部事業計画の企画立案に向って結集する運びになりました。

来年、福岡市の博多湾西部埋立地シーサイドももちは、「アジア太平洋博覧会—福岡'89」が3月17日～9月3日迄開催され、福岡市は市政100年記念の最大イベントとなり予定入場者600万人を見込んでいます。又この期間大手住宅メーカーによる「国際住&環境展」を同時開催、加えてダイエーによるドーム球場を含む複合施設「ホークスタウン」建設計画、ホテルチェーンハイアットの進出計画等、オオーターフロントを生かす都市とリゾートの両面から脚光をあびてあります。九州支部として博覧会会場の併設イベントホールに展示スペースを得たことはJ I D をPRする上に絶好の機会と考え30周年事業の推進に全員が参加することで動き出しています。しかしながら会場と期間は支部全員にとって負担は大きく更に検討を加え、又本部事業、巡回展等の問題ともあわせて、これから充分に練る必要があると思っています。美術館でやった過去3回の作品展の反省から「単品」の作品規模から今後はデザイナーの実務的スケールを出品業者にアピールし、J I D のPRを展開する、従ってデザイナーと企業のかかわりを前向きに示す方向で、出品参加企業、協賛企業を募り、J I D 30周年記念事業の一環としての「第4回J I D 九州事業支部インテリアデザイン展」を成功を期するものです。これらの支部活動が最終的には89デザインイヤー、J I D 30周年記念事業へと集結し、世界デザイン博覧会、世界デザイン会議に広く交流を求めていくものと思っています。

## 記念事業委員会経過報告

- 7月4日・・・全国運営会議開催
- 7月20日・・・第1回記念事業委員会開催
- 8月1日・・・第2回理事会・・・フォーラムの実施決定
- 8月4日・・・第1回記念事業常任委員会開催
- 8月21日・・・箱根フォーラム開催・・・33名参加, J I D ニュース9・10月号参照  
この間各委員会の企画調整作業に入る
- 9月19日・・・第2回記念事業委員会開催・・・企画案の検討  
第3回理事会・・・テーマ“ながれ”を含め企画案を検討, プラスイメージのコメントを入れることで承認
- 9月24日・・・第11回常任委員会・・・シンボルマーク決定, 賛助会員フォーラムと広報対策
- 10月8日・・・第12回常任委員会・・・企画書のまとめ
- 10月26日・・・第3回記念事業委員会・・・企画案の承認と賛助会員フォーラム対策
- 10月27日・・・展覧会委員会・・・会場予定の担当部長に企画の概要を説明
- 10月28日・・・第1回プレス発表(広報委主催)・・・15社参集, シンボルマークの発表と事業の概要説明, ワインパーティ  
・賛助会員フォーラム準備担当者会議(記念事業委員会主催・・・17社参集・事業参加のメリットについての意見交換
- 11月2日・・・第16回常任委員会・・・財務計画の見直し
- 11月4日・・・中部支部キャンペーン(川上・長岡)・・・世界デザイン博と巡回展ほか
- 11月12日・・・九州支部キャンペーン(川上)・・・アジア太平洋博 J I D 展と巡回展ほか本部への注文など
- 11月14日・・・第17回常任委員会・・・賛助会員フォーラム対策・展覧会企画の促進・広報委との提携と全会員へのPRについて
- 11月17日・・・展覧会委員会・・・予定会場の担当次長課長への企画説明
- 11月25日・・・第4回理事会に経過報告。



テーマ館平面図

# 海外情報を求む！

海外インテリアツアーに際して、各都市の  
新しいショップ●ショールーム●公的機関●  
面白い建物●見処●穴場●グルメ情報●ホテ  
ル情報●etc.

インテリアマップ委員会では、各種海外情報を求めています。ご自身の見聞、体験による新鮮な情報をお持ちの方、持っている人をご存知の方、下記マップ委員までお寄せ下さい。

インテリアマップ委員会

小玉靖子、長岡貞夫、中川帛子、長堀映司、福田友美、山下禮子  
関西事業支部：浅田弘之、九洲事業支部：筏島良介、  
中部事業支部：小柳朝一

1988 / 臨時号

頒価 300 円（送料共）

昭和63年12月15日発行 （日本インテリアデザイナー協会月報1988年通巻152号）

発行・社団法人 日本インテリアデザイナー協会

印刷所・（社福）コロニー印刷

振替・東京 8 - 7 6 3 8 9